

02 ワインツーリズムの実践

発表者： 根本織華（医学部看護学科1年），鈴木真緒・関谷彩侑菜（生命環境学部食物科学科3年），上條瑞・佐藤碧衣・

学年は2022年度

渡邊彩子・齋藤梨央・森菜月・富田理沙・大田夢子（同学科4年），岩田朱莉（同学部地域社会システム学科

1年），岡はな・上山花梨・矢野郁穂（同学科2年），中村遥香・山本莉歌（同学科3年），萱沼杏菜（同学科

4年），加藤大智（同学部 生命工学科3年），佐野舞奈・関野知紘（工学部先端材料理工学科3年）

担当教員： 大山勲（生命環境学域/地域計画学），奥田徹・久本雅嗣・斉藤史恵（生命環境学域/ワイン科学）

協力講師：大木貴之、鶴田真也、須藤治憲（（社）ワインツーリズム）

■ 取組みの概要

「ワインツーリズムやまなし」はワイナリーを巡ってワインを楽しむイベントです。本プロジェクトは、このイベントへの参加体験を通して「地域の課題の解決法」について考えることを目的としたプロジェクトです。

ワインツーリズムはワイナリー・ぶどう農家・地域住民・飲食店・朝市・NPO・行政など多様な主体が互いに協力しあって「地域が持っている魅力を引き出し地域の誇りを回復させ、地域のコミュニティの中の信頼関係を構築する「まちづくりの活動」です。ツーリズムは地域外からお客さんが来て地域にお金を落としてくれる経済効果によって地域を活性化することのみと捉えられがちですが、この「ワインツーリズムやまなし」の取り組みは、お客さんとのコミュニケーションや企画運営する様々な主体間のコミュニケーションを通して「地域の生き方をよりポジティブなものに変えること」を目指す取り組みで、ワインとツーリズムの力を借りた「地域資源を活かすまちづくり」です。「地域資源を掘り活かすとは何か?」「ワインの魅力（テロワール・マリアージュ・・・）とは何か?」そのワインの魅力を活かして「地域を活性化する・地域内の経済循環を活性化するととは何か?どうやってそれを実現するか?」・・・を実践活動と人的交流を通じて考え、地域資源を活かすまちづくりへの理解を深めることを目指します。

■ 2022年度の活動

参加者24人（2022年度から新規の参加10人、昨年度からの継続参加10人、その他4人）

打ち合わせ (3/30)

オンライン開催

- 役割分担など：スタッフの運営内容など打合せ

ワインツーリズム春 (4/2笛吹 実施)



22年度キックオフ&打ち合わせ (10/20、10/24)

オンライン開催

- 講義・事前学習：ワインツーリズムの概要・目的を学ぶ
- 役割分担など：当日の運営内容などを打合せ



ワインツーリズムやまなしの目的
ワインツーリズムやまなしが
グッドデザイン賞を受賞した際の
大木さんのスピーチ(6分) ↓



ワインツーリズム秋 (11/5笛吹・6塩山牧丘・12山梨・甲府・13勝沼・19韮崎 実施)

- スタッフとして実践：住民・有志のボランティアの方々と協力して主体的に活動

- イベントを観察・もてなしの実践：お客さんやワイナリーの行動状況を観察。お客さんへの解説などもてなしを実践。SNSへの発信。



ふりかえり (1/10)

- 反省と交流：主催者・ボランティアの方たちとの反省会。課題とこれからの夢を考える



感想

- 地元活性化に奮闘する人たちの熱量を見られるのは貴重な体験だった。
- その地域に無いものを求めるのではなく、今ここにあるものを盛り上げようという考えは全国のどの地域にも通ずるものがあると思う。
- もてなす側も楽しくなければイベントって100%のポテンシャルを発揮しないのかもしれない。
- 学内での座学や実験と異なり、全て自分から行動しなければ学習できない。常に刺激があっても濃い時間になった。
- お酒が弱くてもこれまで知らなかった山梨県のことを知ったり、学部学科を超えた先輩、後輩、イベント運営を共に行う大人の方々、お客様など、普段ではなかなか交流する機会のない人と交流のできる貴重な機会だった。
- 「地域を良くしていく」という大きな目標のために、様々な人が1つのイベントに尽力している姿を見て、積極的に色々なことに挑戦することの大切さ、きっかけづくりの希望を身近で体験し、将来に役立つことを学ぶことができた。



ワインツーリズムの様子(朝日新聞ニュースより) ↑